

第2回多摩市文化芸術推進委員会

多摩市文化・生涯学習推進課

1次第

日 時 令和8年1月22日（木）午後7時～

場 所 ベルブ永山視聴覚室

次第1 前回会議で出た主な意見

次第2 文化芸術の推進と評価に関するポイント整理

次第3 中間支援機能について

次第4 重点取組について

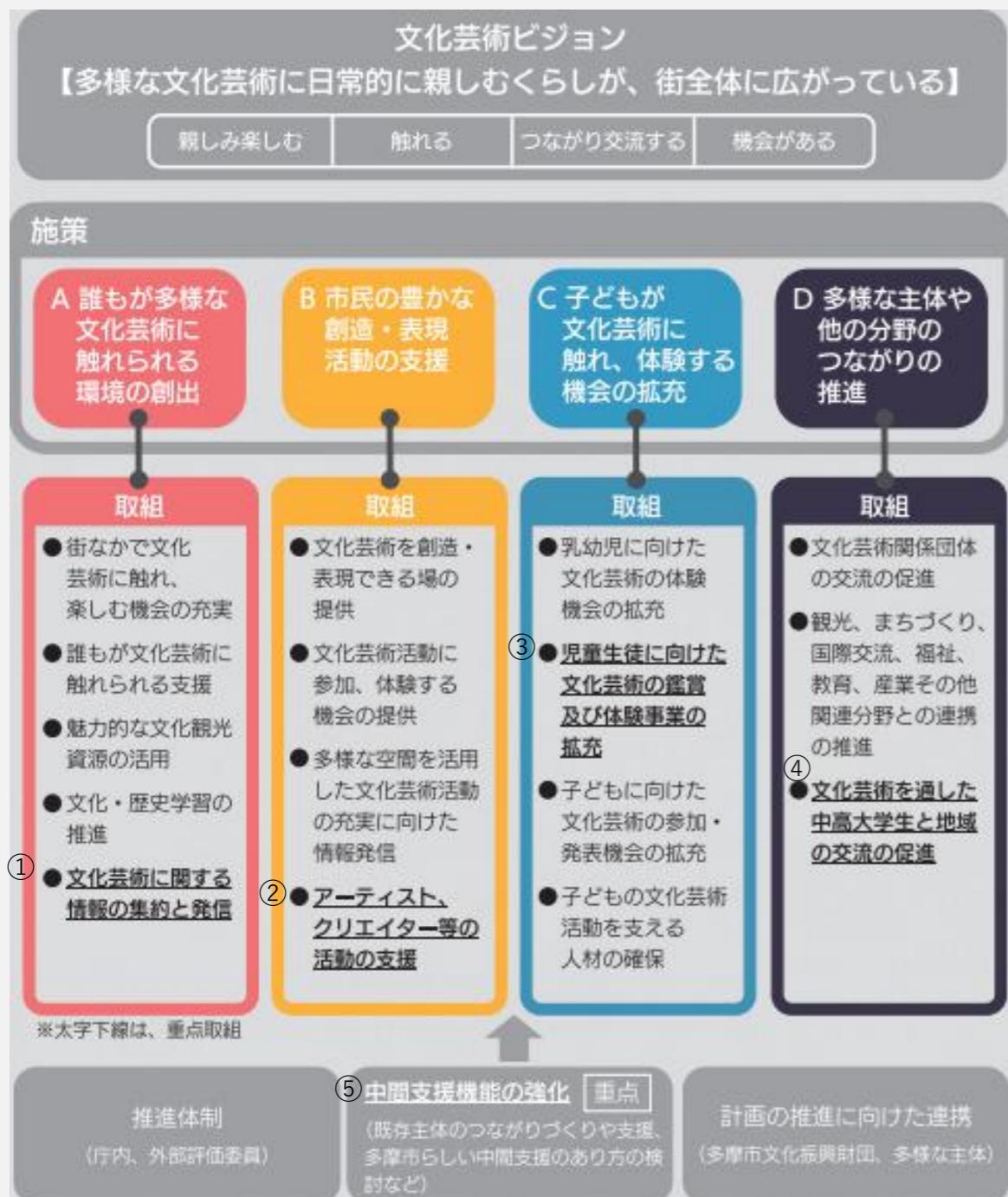
次第5 先進事例

次第6 委員ヒアリング

2 前回会議で出た主な意見

意見	対応
<p>【中間支援】について</p> <ul style="list-style-type: none">・「中間支援機能」の定義と位置付けの整理をした方がよい・中間支援機能の中間支援機能を組織化してはどうか・中間支援機能は組織ではなく、既存機能を強化していく整理とした・STスポット横浜は横浜市全域を対象としているが、横浜市各地域のコーディネーターのハブを担っていることが重要である。中間支援の担い手のハブであり、すでに活動している組織をつないでいる・行政が「中間支援を担う組織」をどう支援するのか、その形を明確にすることが重要	<ul style="list-style-type: none">・「中間支援機能」の定義・位置づけについて、今回の委員会で改めて整理・計画のなかでは新たな「機関」を立ち上げるのではなく、既存の機能の強化、サポートと位置付けており、その方向で具体化に向けた議論を進めていきたい・中間支援機能を担う委員もいることから、本委員会からどのような支援を行政に求めるか、議論を進めていきたい。
<p>【重点取組①文化芸術に関する情報の集約と発信】について</p> <ul style="list-style-type: none">・プレイヤーも双方向で参画できる取組があれば良い・様々なプラットフォームを横断的に統一した仕組みを・一方ですべて統一されているメディアは魅力が薄まる	<ul style="list-style-type: none">・新たなメディアを立ち上げるのではなく、既存のメディアと連携して機能を強化していきたい
<p>【重点取組②アーティスト、クリエイター等の活動の支援】について</p> <ul style="list-style-type: none">・多摩市はミュージアムや拠点となる場所がない・アート系のキュレーションができる人材がない・コーディネーター等が常駐する相談支援拠点が必要ではないか。 日替わりでコーディネーターが変わって、専門性が変わるものも面白い。・パルテノン多摩がその機能を担ってはどうか	<ul style="list-style-type: none">・今後も議論を継続し、取組の方向性を整理していきたい。
<p>【モニタリングシートと重点取組の関係の整理】について</p> <ul style="list-style-type: none">・モニタリングシートに掲載されている既存事業だけで新たな取り組みが行われないと事業の評価は変わっていかない	<ul style="list-style-type: none">・重点取組の推進によって、新たな取り組みの創出、また、既存の取組自体が牽引する形としていきたい

3 文化芸術の推進と評価に関するポイント整理



ア 中間支援機能を強化することで重点取組を始めとした取組を推進していく

イ 中間支援機能の強化を含む重点取組の進行管理を実施

ウ 既存の取組状況をモニタリングシートで確認。計画で定めた指標の数値推移の状況を確認。

エ 中間支援の強化と重点取組の推進が、市の取組や指標数値にどう貢献したかを評価

4 中間支援の定義

多摩市みんなの文化芸術振興プラン2025での定義

(情報)

活動情報の集約や活動の橋渡しを行う中間支援機能の強化をしていく必要があります（プランP19参照）

(場づくり)

他団体等とのネットワーク形成支援、活動場所の情報提供や広報宣伝の支援など～中間支援機能の強化をしていく必要があります（プランP21参照）

⇒ 「中間支援機関」ではなく「中間支援機能の強化」と明記。既存の機能強化。

つまり、多摩市の文化芸術振興における、中間支援とは

文化芸術の担い手（表現活動の担い手）と受け手（鑑賞者・享受者）をつなぎ、両者のコーディネートを行うこと

5 多摩市における中間支援機能の状況

中間支援機能をもつ市内の団体等について、大きく以下の属性に分けて調査した

- ①アーティストや文化団体、文化イベントを紹介している団体（メディア）
- ②子ども・高齢者・障がい者と文化芸術をつなぐ団体
- ③拠点・会場を活用しながら交流や企画をコーディネートする団体 など

調査結果は、別添の参考資料【文化芸術に関する中間支援機能をもつ市内団体等】を参照

6-1 多摩市みんなの文化芸術振興プラン2025での定義

項目	計画での定義
「中間支援機能」の定義と位置付けの整理	<p>(情報) 活動情報の集約や活動の橋渡しを行う中間支援機能の強化をしていく必要があります (P19)</p> <p>(場づくり) 他団体等とのネットワーク形成支援、活動場所の情報提供や広報宣伝の支援など～中間支援機能の強化をしていく必要があります (P21)</p> <p>⇒ 「中間支援機関」ではなく「中間支援機能の強化」と明記。既存の機能強化。 既存機能を強化するためには、行政から、どういった支援が必要となるか？</p>
重点取組①文化芸術に関する情報の集約と発信	<p>市内外で行われる多彩な文化芸術事業の情報について、本市のホームページや広報、SNS等様々な手段により発信していますが、「情報が集約出来ていない」、「情報過多により選択できない」、「お勧めの情報がほしい」などの意見を踏まえ、一元的に集約される形で整理され、市民が欲しい情報を収集しやすい環境の整備に向けて取り組みます (P31)</p> <p>⇒新たなメディアを立ち上げるというよりは、既存のメディアとの連携</p>
重点取組②アーティスト、クリエイター等の活動の支援	<p>アーティストやクリエイターが創造的に活動できるような環境整備の検討 (P32)</p> <p>⇒まずは「創造的に活動できる場の提供」</p> <p>多摩市には「場」や「人材」が不足しているという前回委員会での指摘</p> <p>東山 アーティスツ・プレイスメント・サービス（略称：HAPS）芸術家と芸術を支える人のためのよろず相談所、公益財団法人横浜市芸術文化振興財団の事例を参照</p>

6-2 多摩市みんなの文化芸術振興プラン2025での定義

項目	計画での定義
重点取組③児童生徒に向けた文化芸術の鑑賞及び体験事業の拡充	<p>地域の協力を得ながら実施する伝統文化の継承に関する取組を、教科等の学習と関連させながらより広く実施。部活動の地域連携・地域移行の動きを踏まえ、児童生徒がこれまで以上に文化芸術に触れる機会が増えるよう、取り組む。</p> <p>児童館などの学校以外における場においても、市内の子ども達が伝統文化等に関する活動を体験、修得し、発表できる機会を得られるよう、引き続き支援 (P33)</p>
重点取組④文化芸術を通した中高大学生と地域の交流の促進	<p>⇒既存「中間支援機能」との連携が必須</p> <p>文化芸術イベント開催等にあたって、イベント主催者と、市内の中高生の活動や近隣大学のサークル等の若者による活動等とのマッチングを支援し、地域との交流を促進 (P34)</p> <p>⇒重点取り組み②に同じ</p>

7 先進事例

8 委員ヒアリング

9世論調査及び内部データ速報値（この場限り）

指標名	計画スタート時現状値 令和5（2023）年度	現状値 令和7（2025）年度	中間値 令和11（2029）年度	目標値 令和15（2033）年度
1年間に、有料の、文化や芸術の公演や展示等を鑑賞したことがあると回答した市民の割合 ※括弧内は、無料鑑賞含む割合	53.9% (63.3%)	58.5% (66.4%)	63% (73%)	72% (82%)
1年間に文化や芸術の創作をした市民の割合	18.3%	21.1%	23.5%	29%
パルテノン多摩大ホール及び小ホールの年間利用者人数	166,538人	188,761人(令和6年度実績)	220,000人	230,000人
文化財施設等（※）の年間延来館者人数	81,333人	88,537人(令和6年度実績)	107,925人	114,025人
文化・芸術の振興に関する市政の満足度（満足・やや満足の回答者割合）	18.4%	20.5%	22%	27%
子どもの頃から文化芸術に触れる妨げになっている要因に、「文化芸術活動に関する情報が乏しい」と「文化芸術活動が身近で行われていない」を回答した市民（子育て世代）の割合	39.1% 39.6%	—	30% 30%	20% 20%

10 今後のスケジュール（予定）

